

第2次答申 及び 第2次方針 策定に向けた論点整理

- 第2次方針策定のための基本的な考え方 及び
第2回審議会でのワークを踏まえて —

飯田市これからの学校のあり方審議会において ご議論いただく内容

■ これまでの経過

- ① 令和2年に「飯田市少子化における児童生徒の教育環境の充実に向けた取組研究会」を要綱設置し研究を進め、令和5年度からはこの研究会を発展させた「飯田市これからの学校のあり方審議会」を条例設置し、教育委員会からの諮問に基づき審議を進めてきた。
- ② 審議会では、目指す教育の姿の変化、進む少子化、学校施設の老朽化など教育を取り巻く環境変化を捉えつつ、これからの時代の教育に対応したより良い教育環境づくりに向けた「これからの学校のあり方」について、「飯田市立小・中学校のこれからの配置・枠組みのあり方について」、「特色と魅力ある教育活動のあり方について」の2点を審議いただき、第一次として「イ」について令和6年10月に答申をいただいた。
- ③ 令和7年度からは、審議会からいただいた「飯田市の学校を取り巻く教育環境の変化への対応に必要な方策について(一次答申)」を基本に、広く市民からの意見も踏まえ策定した「飯田市立小中学校の今後のあり方に関する方針～第1次～」に基づき、各中学校区内の小中学校を「学園」として9年間の小中一貫教育を推進する「飯田学園構想」がスタートしており、小中一貫教育を強力に進める態勢、教育環境の整備に注力している。

■ 今後の議論

- ① 今後、「飯田学園構想」を着実に実施し小中一貫教育の充実を図り、特色があり魅力的な教育を進めるにあたり、小中学校の配置・枠組みはどうあるべきかという視点から、諮問事項「飯田市立小・中学校のこれからの配置・枠組みのあり方について」、先を見越した議論として、審議会でも議論を進める。
- ② 現段階で本市は、学校再編の基本的な考え方やあり方を定めそれに向かって教育委員会主導で再編を進めていく「トップダウン方式をとっておらず、学園地域の課題感や危機意識の状況を見定めながら、協働で学園内の学校のあり方を検討していくボトムアップ方式をとっている。
- ③ 今後の審議では、ボトムアップ方式のメリット・デメリット、これまでの議論を踏まえた学校の規模(小規模教育のメリット・デメリット)、今後の学校施設の配置のあり方を優先的に検討する学園やその検討の進め方、定めることの必要性も含めて当地域の地域的・地理的特性等を踏まえた望ましい学校の規模等について議論を進め、令和7年度から令和8年度の2力年で一定の方針を示したい。

第2次方針策定のための基本的な考え方

～ 令和6年度の第6回審議会において提示した視点 ～

基本 方針

第1次方針「飯田学園構想」を着実に実施し小中一貫教育の充実を図ることを第一に、飯田市立小・中学校のこれからの配置・枠組みのあり方についての議論を進める。
なお、具体的に学校施設の配置・枠組みを検討するに際しては、以下の5つの視点を持って検討することとする。

視点 1

児童生徒の教育環境の充実を最優先に考える。ただし、学校は地域の将来の担い手や支え手となる人を育てる機能を有していることにも配慮する。

視点 2

個別の学校の状況だけでなく、学園内の学校全体の状況を考慮する。

視点 3

保護者や地域の課題意識の高い学園や、安全面で課題があると考えられる学園を対象とする。

視点 4

具体的なあり方の検討では、保護者、学校教職員、住民の代表者、教育委員会事務局の職員で構成する検討組織を組成し協議を重ねて方向性を定めていく。

視点 5

教育移住の促進等の児童生徒数の維持・増加に向けた取組を地域をあげて推進することが見込める学園は、その取組の効果を考慮する。

第2回審議会での審議について

第2回審議会での審議の目的

これまでの審議の経過から…

- 「飯田学園構想」を着実に実施し学園において特色があり魅力的な教育を進めていくための教育環境とはどのような状態なのかを、地域における児童生徒数及び施設の面から検討する。
- その検討方法としては、学校のあり方の検討が地域コミュニティの活性化あるいは衰えている家庭の教育力の再生、地域の教育力の再生に繋がる手続き・手順であり、取組である観点からボトムアップ方式が妥当であるが、地域課題に対する対応策としての案、あり方検討に入る契機の設定、検討体制などを含め、行政及び教育行政のスタンスや関与具合に関わる方向性を具体化する必要がある、それが第2次答申につながる。

本日の審議会では委員の皆様にご意見を伺い、意見交換をお願いします

遠山郷学園内小学校の再編に向けた取組から

第2次答申に向けた論点抽出

遠山郷学園内の小学校再編の取組を参考事例として、今後、地域・保護者・学校・教育委員会が協働して学校のあり方検討を進めるための重要な論点を抽出し、第2次答申につなげる。

第2次答申に向けた論点整理のためのグループワークの結果

令和7年度 第2回飯田市これからの学校のあり方審議会 グループワーク **グループ A**

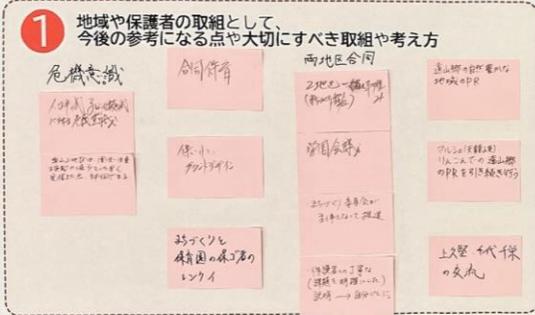
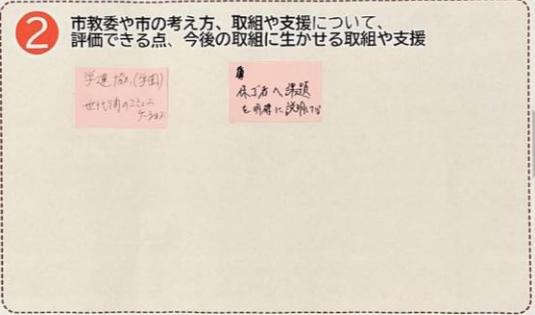
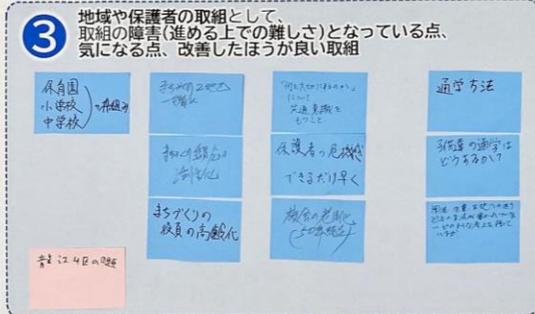
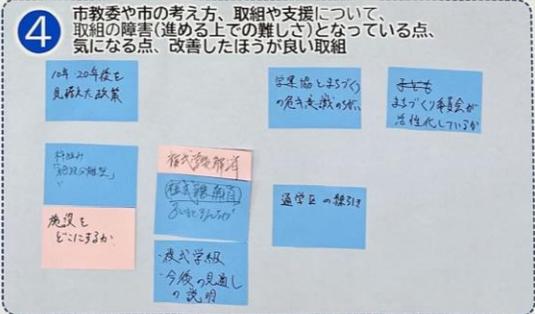
ポイント - 結果共有のための発表から

- 「こどもをまんなか」の視点と委員のそれぞれの立場・地域ということも大事な柱に意見交換
- 「保護者・地域」については、とにかく地域の人口減少・急激な少子化を危機意識として持つことが必要との意見が多く出された。
- 具体的には、合同保育で一緒にいた園児が小学校で分かれてしまう課題が、2つの学園にまたがる地域の課題とも重なり、遠山郷学園だけでなく他の学園でも共通の悩みとなっていることが確認された。
- 遠山郷学園では、まちづくり委員会と学校運営協議会がひとつになっているが、こどもの教育環境の危機という共通認識があったものと分析した。他の地域では「ここがうまくいってないのでは」との意見も出され、このことは今後考えていく上で重要な視点であることが共有された。
- 「市・市教委」については、「保護者・地域」のところで危機意識が大事としたが、そのために、保護者や地域に課題を明確に伝えることが大事だという意見が出された。
- 今後、施設の配置について協議をする際には「通学」に関する部分がネックになる可能性があるとの発言もあった。
- 遠山郷学園の取組から、それぞれの地域の課題が見えてきたとの意見もあった。

令和7年9月29日(月) 令和7年度 第2回飯田市これからの学校のあり方審議会 個別及びグループワークシート

第2次答申に向けた論点整理のためのグループワークシート

～ 遠山郷学園内小学校の再編に向けた取組からの第2次答申に向けた論点抽出 ～

Group	第2次答申に向けた論点整理のためのグループワークシート ～ 遠山郷学園内小学校の再編に向けた取組からの第2次答申に向けた論点抽出 ～		
ワークの目的	遠山郷学園内の小学校再編の参考取組を実例として、今後、地域・保護者・学校・教育委員会が協働して学校のあり方検討を進めるための重要な論点を抽出し、第2次答申につなげる。		
	保護者・地域	市教委・市	今後審議すべきテーマ等
今後の参考になる点、大事にすべき点	<p>1 地域や保護者の取組として、今後の参考になる点や大切にすべき取組や考え方</p> 	<p>2 市教委や市の考え方、取組や支援について、評価できる点、今後の取組に生かせる取組や支援</p> 	<p>良いところ・大事にしたいところを生かした取組のポイント</p> <p>まちづくり委員会の活性化 問題の共有 危機意識 課題は明確に伝える</p>
取組の障害(進める上での難しさ)となる点、気になる点	<p>3 地域や保護者の取組として、取組の障害(進める上での難しさ)となっている点、気になる点、改善したほうが良い取組</p> 	<p>4 市教委や市の考え方、取組や支援について、取組の障害(進める上での難しさ)となっている点、気になる点、改善したほうが良い取組</p> 	<p>障害(進める上での難しさ)を取り除き改善しながら取組を進めるポイント</p> <p>通学方法(子どもの環境)をより具体的に考える 子どもが別々になることは、大きな課題</p>

第2次答申に向けた論点整理のためのグループワークの結果

令和7年度 第2回飯田市これからの学校のあり方審議会 グループワーク **グループ B**

ポイント - 結果共有のための発表から

- 参考になる点について「保護者・地域」の視点からは、地域が「こどもまんなか」を大切にしている点が挙げられた。特に「こどもの教育環境の面から迅速に進めてほしい」という保護者の声や未満児を含めこれから子育てをしていこうとする若い皆さんの声に傾聴することが重要との意見があった。「市・市教委」の視点からは、市教委も一緒に議論した点は、今後、学校再編を進めて考えていく上で、とても大切なこととの意見があった。
- 取組の障害となる点・気になる点について「保護者・地域」の取組では、取組を進めていく中で、学校がなくなってしまうという地域の思いを考えると意見を言いづらいとか、責任は誰が取るのかという話題もあり、実際に取組を進める上での現実的な障害の一つになり得るとの意見があった。
- また、「将来が見えてこない」ことへの不安、どういった時に危機感を持たなければいけないのかわからないとの意見があった。
- その裏返しとなるが、保護者や地域の皆さんが、将来が見えないことへの不安を感じていることを考慮すれば、市や市教委は、取組の支援として、一定のあるべき姿や方針を示すことが大切との意見があった。学校運営、財政的なことを含め住民では知ることが難しい情報を含めて、議論を始めるタイミングを提示することが必要ではないかとの意見が出された。

令和7年9月29日(月) 令和7年度 第2回飯田市これからの学校のあり方審議会 個別及びグループワークシート

第2次答申に向けた論点整理のためのグループワークシート

～ 遠山郷学園内小学校の再編に向けた取組からの第2次答申に向けた論点抽出 ～

Group

ワークの目的

遠山郷学園内の小学校再編の参考取組を事例として、今後、地域・保護者・学校・教育委員会が協働して学校のあり方検討を進めるための重要な論点を抽出し、第2次答申につなげる。

保護者・地域

市教委・市

今後審議すべきテーマ等

今後の参考になる点、大事にすべき点、

取組の障害となる点、気になる点

1 地域や保護者の取組として、今後の参考になる点や大切にすべき取組や考え方

Handwritten notes for Group 1:

- 男性(保護者) 学校の目的を深く(理解) 伝統の守
- 子どもたち 学校がなくなるとどう感じるか
- 子どもたち 引継ぎの仕組み作り
- 危機意識 課題意識
- 子どもたち 保護者の意見も大事!
- 子どもたち 子どもの声も大事!
- 子どもたち 子どもの声も大事!
- 子どもたち 子どもの声も大事!

2 市教委や市の考え方、取組や支援について、評価できる点、今後の取組に生かせる取組や支援

Handwritten notes for Group 2:

- 市も地域と同じ 上級で対応する
- 地域の見え方 異地化
- 市(行政)も 一歩引いて 対応してあげる!
- 防災安全を 考えた学校づくり
- 合弁
- 子どもたち 子どもの声も大事!
- 子どもたち 子どもの声も大事!

良いところ・大事にしたいところを生かした取組のポイント

3 地域や保護者の取組として、取組の障害(進める上での難しさ)となっている点、気になる点、改善したほうが良い取組

Handwritten notes for Group 3:

- 子どもたち 学校がなくなるとどう感じるか
- 子どもたち 引継ぎの仕組み作り
- 子どもたち 保護者の意見も大事!
- 子どもたち 子どもの声も大事!

4 市教委や市の考え方、取組や支援について、取組の障害(進める上での難しさ)となっている点、気になる点、改善したほうが良い取組

Handwritten notes for Group 4:

- 子どもたち 学校がなくなるとどう感じるか
- 子どもたち 引継ぎの仕組み作り
- 子どもたち 保護者の意見も大事!
- 子どもたち 子どもの声も大事!

障害(進める上での難しさ)を取り除き改善しながら取組を進めるポイント

第2次答申に向けた論点整理のためのグループワークの結果

令和7年度 第2回飯田市これからの学校のあり方審議会 グループワーク **グループC**

ポイント - 結果共有のための発表から

- 参考になる点として、地域の主体性、分析的思考とその解決に向けた様々な実践、学校と地域でつくる学びの未来を考えている点、情報収集力やスピード感、対話と合意形成を大事にしている点等が挙げられた一方で、地域の中でも温度差や問題意識の違いがあったり、「こどもまんなか」とは言いながら「自分中心になっている」部分も出てしまうのではとの意見もあった。
- 市教委は、常に課題とミッションを共有しながら、地域への伴走に徹してくれている点、寄り添う姿勢は大切だとの意見があった。
- 取組の障害になっている点では、地域によって学園構想や学校のあり方についての問題意識の低さがあること、地域での議論に際しての仕組みや組織を立ち上げる際の委員の選出がポイントになるのではとの意見が出された。
- 今後このあり方審議会で議論していくこととして、あり方の検討をする学園の優先順位をどうすれば良いのか、これまでの審議で明らかにしてきた目的地と道のりを、どういう乗り物に乗っていくのかというところを議論すべきとの意見をまとめた。
- 遠山郷学園は、1小学校1中学校の施設分離型を選択したが、他の学園は、今後の課題であることを考慮すると、ある程度の選択肢はこの審議会で議論して提案をしていくことが大事ではないかとの意見が出された。

令和7年9月29日(月) 令和7年度 第2回飯田市これからの学校のあり方審議会 個別及びグループワークシート

第2次答申に向けた論点整理のためのグループワークシート

～ 遠山郷学園内小学校の再編に向けた取組からの第2次答申に向けた論点抽出 ～

Group

ワークの目的

遠山郷学園内の小学校再編の参考取組を実例として、今後、地域・保護者・学校・教育委員会が協働して学校のあり方検討を進めるための重要な論点を抽出し、第2次答申につなげる。

保護者・地域

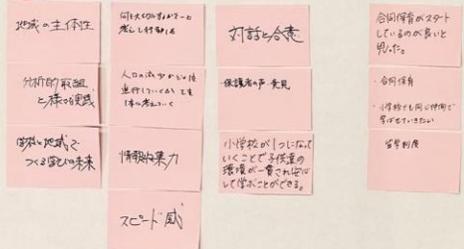
市教委・市

今後審議すべきテーマ等

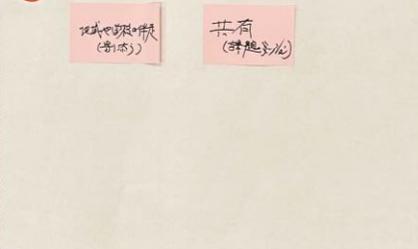
今後の参考になる点

取組の障害(進める上での難しさ)となる点、気になる点

1 地域や保護者の取組として、今後の参考になる点や大切にすべき取組や考え方

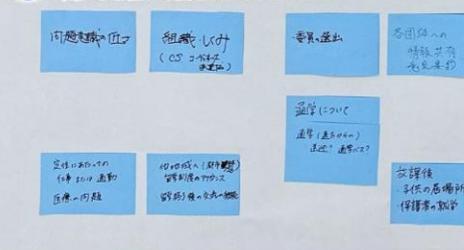


2 市教委や市の考え方、取組や支援について、評価できる点、今後の取組に生かせる取組や支援

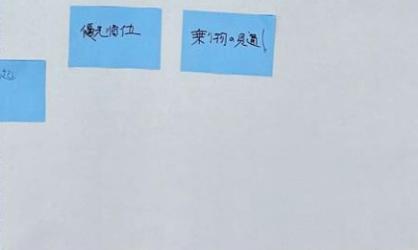


良いところ・大事にしたいところを生かした取組のポイント

3 地域や保護者の取組として、取組の障害(進める上での難しさ)となっている点、気になる点、改善したほうが良い取組



4 市教委や市の考え方、取組や支援について、取組の障害(進める上での難しさ)となっている点、気になる点、改善したほうが良い取組



障害(進める上での難しさ)を取り除き改善しながら取組を進めるポイント

保護者・地域

1 地域や保護者の取組として、今後の参考になる点や大切にすべき取組や考え方

● **まずは…**
 危機意識・課題意識の共有
 - 地域の現状を直視

危機意識の共有

危機意識の共有

人口減少・少子化に対する危機意識

人口の減少がどの位進行して行くかを主体的に考えていく

地域の人口減少の状況を早く見据えた点

課題意識の共有

● **ミッションを明確にしたが組織の組成**

学園会議の組成

検討組織の組成

検討のための組織の組成

明確なミッション

ビジョンの共有

● **まちづくり委員会等の主体性**
 - 学校づくりは地域づくり

学校づくりは地域づくり

学校と地域でつくる学びの未来

まちづくり委員会が主体となって推進

地域の主体性

地域の主体性

学園内地域が一緒になった取組

地域が一丸となった取組

● **大切にすべきことは何か？**

何を大切にすることを考え行動した

学校のために動く住民の姿

● **自分事として**
 - こどもまんなか

高い意識

こどもまんなか

こどもまんなか

自分事としての取組

自分事としての取組

● **学園としての取組**
 - 素地として

園・小・中のランドデザイン

2園3校のランドデザイン

様々な実践

合同保育

合同保育

合同保育の取組

合同保育の実践

合同保育がスタートしていることが良いと思う

● **保護者やこれからを担う若者の声に傾聴**
 - 最重要ポイント

まちづくりと保護者の連携

現在の保護者の声と意見

若い世代の声を聞く

これからを担う若年層の意見

これから保護者になる人の声と意見

未満児の保護者の意見も大事

保護者への丁寧な説明

こどもたちを引き離さない

小学校でも同じ仲間と学ばせて行きたい

学校が一つになることでこどもの環境が一貫され安心して学ぶことができる

● **地域としての取組の積み重ね**

まちづくり委員会の活動が活発

留学制度

遠山郷の自然豊かな地域のPR

上久堅・千代・千栄の交流

● **参考になる取組**

分析的思考

情報収集力

スピード感

対話と合意

話し合うことの大切さ

情報の発信

現場の教員との交流・協議

まとめ-POINT-

- 学園構想を推進する観点からの検討
- 学園としての一体感
- 保護者等の意見を大事に
- まちづくり委員会の主体性
- 検討組織の組成
- 地域の危機意識
- こどもまんなかの徹底

大事にすべき点、今後の参考になる点

市教委・市

2 市教委や市の考え方、取組や支援について、評価できる点、 今後の取組に生かせる取組や支援

●一緒に検討 - 最初から連携

地域や学校への
伴走（寄り添い）

まちづくり委員会と
の連携

地域に寄り添った対応

保護者や地域の人たちと連携して話し合っていること

寄り添ってくれる

市も地域と同じ土俵で対応する

市も一緒になってくれる

●基本的な方向性の共有 - 立ち位置・姿勢の確認

再編ありきではない姿勢

学校を残すための取組

日常的な意見交換

ミッションの共有

こどもまんなか

●課題の共有

課題の共有

課題の共有

保護者へ課題を明確に説明している

課題の説明

●情報提供 - 出せるものは全部出す

データ提供

データ提供

事例紹介

視察研修

●その他 - これまでの取組

地域の意見を具現化する

学運協

防災・安全面からの選択や助言

迅速な協議

世代間のコミュニケーション

小規模特認校

●協議への参画

会議への出席はありがたかった

まとめ-POINT-

- 学園地域への寄り添い
- 最初から一緒に検討
- 課題、考え方や姿勢の共有（再編ありきではない・地域に学校を残す）
- 検討しやすい環境整備（情報等提供）
- 検討に必ず参画

2 市教委や市の考え方、取組や支援について、評価できる点、
今後の取組に生かせる取組や支援

意見

寄り添う

地域課題

共有

保護者

説明

データ提供

連携
学校

対応

残す

出席

土俵
紹介

再編ありきではな...

研修

こどもまんなか

意見交換

ミッション

まちづくり委員会

一緒に

明確 視察

日常

安全

具現化

小規模特認校

コミュニケーション...

助言

選択 話し合い

防災 世代

迅速

学運協

事例 姿勢

会議

伴走

協議

取組

注1 文字の大きさは、出現頻度を表している。
注2 ユーザーローカル テキストマイニングツール
による分析
マイニングツール
URL : <https://textmining.userlocal.jp/>

保護者・地域

③ 地域や保護者の取組として、取組の障害(進める上での難しさ)となっている点、気になる点、改善したほうが良い取組

- 将来の姿のイメージができない
 - こどもの学びの環境としてどのような姿が良いのか？

どのような未来像を見据えれば良いかわからない

将来が見えないという保護者の声

将来が見えない

保育園、小学校、中学校の枠組み

校舎の老朽化

- 地域自治の課題

検討組織での検討の活性化

まちづくり委員会の活性化

違う地区と一緒に検討

まちづくりの役員の高齢化

- 世代間ギャップや地域間ギャップの解消

地域が一丸となるほどの危機感

何を大切にすることについて共通意識を持つこと

保護者の危機感

問題意識の低さ

課題提起

世代間の意識の違い

世代間の意見の違い

住民がこどもの未来を見ていない

- どこまで、いつまでに検討するか
 - まとめるタイミング

期限の設定

決めるタイミング

見極め方

スピード感

- 多様な意見を集約することができるか
 - 役員の負担

学校がなくなってしまふことにつながるので意見が出せない

言うとなたかれるので言えない

腹を割って話ができない

腹を割って話ができない

状況におしきられる

決める人への重圧

各団体への情報共有

意見集約

- 検討組織の組成
 - 委員の選任をどうするか
 - 何を大事にするか

組織・仕組み

委員の選出

委員の選出

特定の人の意見になってしまう

保護者の声が届かない

- 検討に際しての現実的な課題

通学方法

通学手段の不安

こどもの通学はどうするか

通学についてどのような考えを持っているか

放課後の児童生徒の居場所

定住に当たっての仕事又は通勤

保護者の就労

医療の問題

龍江4区の問題

他地域への留学制度のアナウンス

留学終了後の交流の継続

まとめ-POINT-

- こどもにとって「最適な学びの環境」の将来がイメージできない
- どこまで、いつまでに検討するか
- 検討組織の委員をどう選出するか
- 世代間ギャップや地域間ギャップをどのように解消するか
- 多様な意見を集約することができるか不安

市教委・市

4 市教委や市の考え方、取組や支援について、取組の障害(進める上での難しさ)となっている点、気になる点、改善したほうが良い取組

- 市としての方針を示すことは自治やボトムアップ型の合意形成を侵害しない
 - 地域特性を踏まえた規模感、施設面での課題を保護者や地域に提示してほしい

市としての考えを提示することは、自治を侵害しない

将来が見えないという保護者の声

10年後、20年後を見据えた政策

将来が見えない

将来像を示す必要がある

市の方向性が明確になっていない

方針・あるべき姿をして提示してほしい

一定の方向性の提示

乗り物の見通し

枠組み

- 地域特性を踏まえた規模感に関する考え方
 - 小規模を前提に、どの程度をめざすのか?

こどもまんなか

見通しの説明

複式学級

複式学級解消

複式学級解消

- 優先順位を定めるべき
 - こどもの学びの環境として議論しなくてはいけない学園の順位を提示

議論する学園の順位

優先順位

大規模校のあり方

- スケジュール感を
 - 優先順位とあわせて、議論するタイミングを明示

決めるタイミング

- 選択肢の提示を

選択肢の提示

再編のメリットを教えてくれると進めやすい

- どのような施設が良いかわからない
 - こどもの学びの環境として選択肢を提示

どういう施設のあり方が良いかわからない

施設をどこにするか

財政面・コスト面や施設の面で住民は情報を持っていない

施設の形態に関する考え

- 通学区や通学手段に関する検討の必要性

通学区の線引き

通学区

通学方法

- 一緒に議論する際の姿勢や工夫

再編ありきではない姿勢の明示

学運協とまちづくり委員会の危機意識の違い

市も地域と同じ土俵で対話する

まちづくり委員会が活性化しているか

良さを発信すること

学校の先生の意見を聞く機会を設けてほしい

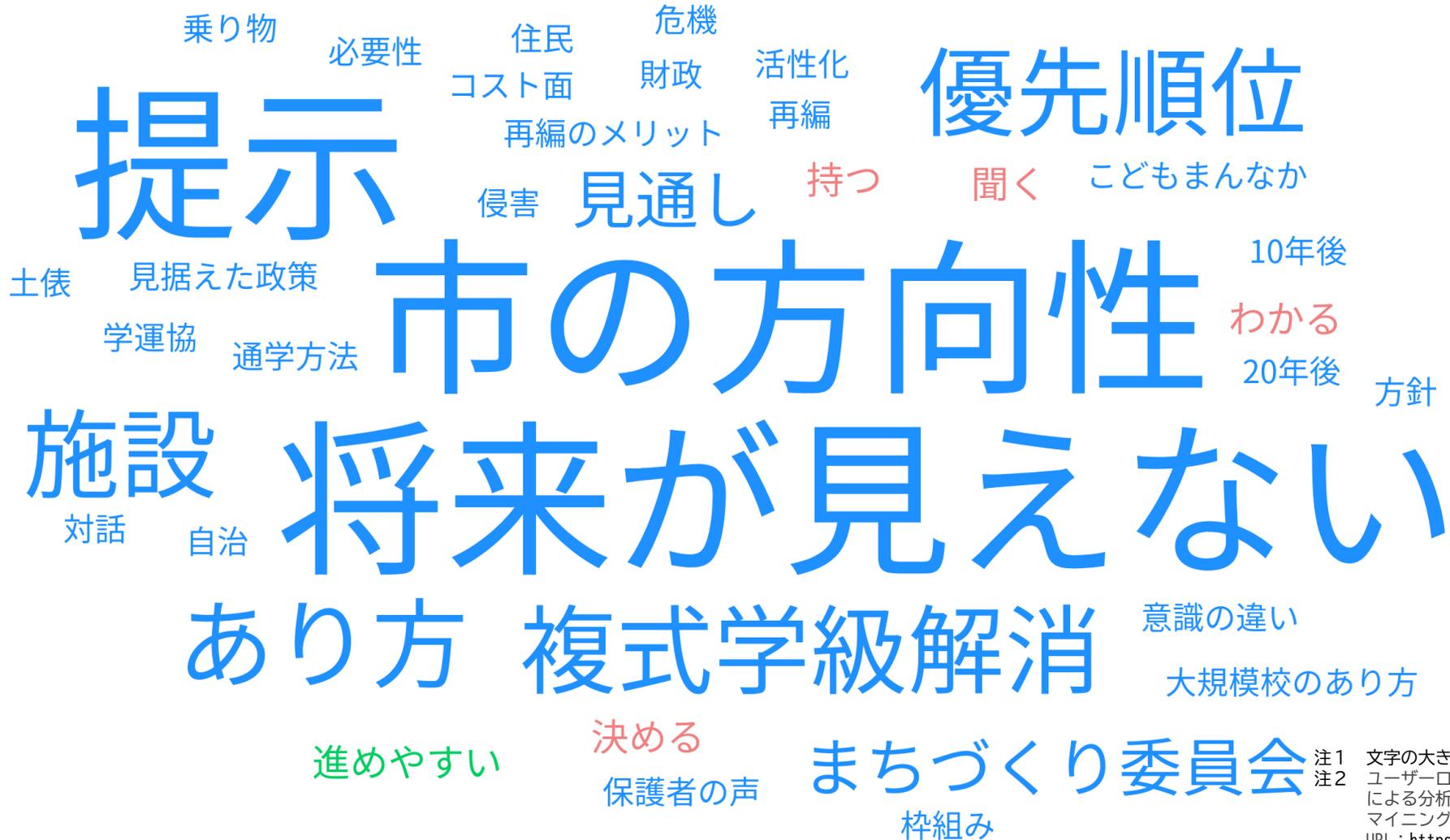
まとめ-POINT-

- 市及び市教委の立ち位置・姿勢の明示
- 市としての方針を提示
 - ◆地域特性を踏まえた規模感
 - ◆どのような施設が良いか
 - ◆規模感や施設面から見た検討優先順位
 - ◆スケジュール感
- 通学手段に関する不安

取組の障害(進める上での難しさ)となっている点、気になる点

4

市教委や市の考え方、取組や支援について、取組の障害(進める上での難しさ)となっている点、気になる点、改善したほうが良い取組



注1 文字の大きさは、出現頻度を表している。
注2 ユーザーローカル テキストマイニングツール
による分析
マイニングツール
URL : <https://textmining.userlocal.jp/>

個人ワークシートから

－ グループワークを通じて大事だと感じた点、今後の議論して行く必要があると感じた点の自由記述まとめ①

① 「こどもまんなか」を基本に据えて

- こどもを中心においた思考
- まちづくり委員会等を中心とするが、保護者の意見を聞いてこどもまんなかで
- こどもまんなかの視点
- こどもまんなかの考え方が最も大事
- こどもがどのような環境の中で育つことが良いことなのかを考える
- こどもをまんなかに、保護者も積極的に関与する必要がある
- こどもまんなかと言いながら、自分まんなかになりがち
- 保護者の関わりを増やすことでこどもまんなかに
- こども中心に
- 大人や地域の都合もあるが、こどもまんなかに全てを考えることの大切さ

② 「学校づくりは地域づくり」の精神

- 学校運営協議会とまちづくり委員会の活性化
- 単なる行政の課題として受け止められていないか
- 学園内の地域間での温度差を埋める危機意識の共有
- あらゆる年代への課題提起により合意形成がスムーズに進むのではないか
- スピード感を持って対応できる体制
- 思っているよりも世代間ギャップはない
- 地域の課題や問題点を明確にすることが大切
- 多様な意見があるのは当たり前、全部出して方向性を決めることが大切

③ 飯田市・飯田市教育委員会の寄り添う姿勢

- 地域に寄り添う市・市教委の姿勢は大切
- 行政があるべき姿や方針を示し同じ土俵で対話をする

④ 基本的な方針について議論を

- 市としてどのような乗りものに
- 長期的な視点からの配置・枠組みと足下で対応しなければならない部分
- 中規模若しくは大規模学校に関する方向性は
- ビジョンを明確にしていく
- 学園により状況が違うので全体のビジョンは難しい
- 少し先の将来の姿を示すこと
- 保護者や学園の主体的な検討を大切にするが、配置・枠組みをどう位置付けるかを審議会で議論し提示する必要がある
- 飯田市全体での方向性を持つ必要があるのか

⑤ 具体的な検討に入るために ー 優先順位を明確にする

- この先10年程度を目途に、優先順位をつけて取り組むべき
- どこの学園から議論をするか、優先順位を明確にしていく
- 具体的なアクションを起こすタイミングは
- 危機感を持つタイミング
- タイミングを明確に
- どの学園から協議を開始するのか

個人ワークシートから

－ グループワークを通じて大事だと感じた点、今後の議論して行く必要があると感じた点の自由記述まとめ②

6 学園地域に学校を「残す」ための方策の検討を

- 小規模学校をその良さを生かして残す方向性
- 出発点は、少子化時代のこどもを取り巻く環境

7 喫緊の課題としての「複式学級の解消」

- 教育環境として、一定程度の人数がいた方が良く、規模はどうか
- 複式学級の解消に向けた順位づけが重要
- 児童生徒数が減少することを受け止め、複式にならない状態をめざす
- 複式学級にならない規模が必要

8 喫緊の課題としての「施設の老朽化」

- 建設後50年以上が経過する施設をどうするか
- 学校施設の後利用については、どう議論するか

9 飯田学園構想を進めるための施設形態

- 施設の形態について選択肢として伝える

10 地域での検討のあり方

- 少子化の現状と危機意識の共有
- 課題提起の方法で意識の低さを解消
- 保護者に課題を明確に伝える
- 保護者と地域住民の温度差の解消
- 保護者、未就学児の保護者の意見をきちんと聞くことが重要
- 保護者の意見を大切にしてもらえるような話し合いの方法
- 保護者と教育委員会が話しをする機会があると良い
- 若年層(小さい子を持つ親も)の意見や考え方を大切に
- 保護者、地域、行政が一緒になって、この地域で学びたい、この地域に残りたいと思えるような教育をして行くために魅力を高めていくこと
- まちづくり委員会が主体となって、少ない意見も大切にした意見交換によりわかまわりを残さない議論を
- 地域で検討する組織と市や市教委との連携
- 検討組織の委員選出が重要
- 検討組織の人選が大切
- 協議をしていく手順
- 合意形成や決定プロセスのあり方

グループワークの結果を踏まえた専門委員からのコメント

坂野委員コメント

- まず1点目ですけれども、こどもをまんやかに置いてということについては、ほとんどのグループで共有されていたかと思います。問題となるのは、ここにいる審議会委員の方々は共有できていますが、他の方々がどれくらいその意識があるかということはあるかというところは考えておく必要があると思います。
- 2点目として、市のサポートのことですが、今の市のサポートは良いのではないかと、グループの発表から読み取れました。つまり、対話型で共にやっていくという姿勢が、関係者の中では共有されている。ただし、これまで議論に加わっていない方々に対して、市教育委員会の姿勢や立ち位置をどのように伝えていくかが課題になってくるかと思います。
- 3点目になりますが、今後に向けて改善した方が良い点ですが、遠山郷学園会議の取組から、多少延びたが、先にいつまでに決めるかという期限を定めたことが重要で、学校のあり方の方向性について誰が決めるかということが問題になるところです。先に市教育委員会が示してしまうと、出口が決められていて地域としてやりたくないという思いが出てしまうが、地域の方々の中で、期限を定めたということがまさに良いプロセスなのだと思います。
- 4点目についてですが、遠山郷学園会議の取組のお話にもありましたが、会議の回数が非常に多くなったということで、参加している委員の方々の負担が生じてしまっています。その負担感をどのように捉えていくかが大切で、相互理解を深めるための手続きであるというように捉え方を共有できると良いかと思いました。以上です。

井出委員コメント

- それぞれのグループ発表の中でほとんど大事な部分に触れていますので、それを踏まえていくつかお話をします。
- 一つは、遠山郷学園をサンプルに色々と話し合いをしましたけれども、これが例えば、緑ヶ丘学園や旭ヶ丘学園といった地域の問題を考える時には、全く違った問題が出てくるだろうということです。つまり、非常に良い進め方をしているけれども、これは遠山郷の児童生徒数の急激な減少という、非常にわかりやすい問題があって、それをみんなで考えていこうと当事者意識を持って話し合っていたという、良い組み合わせが良い関係ができていたから進んでいったところがあります。逆に、大きい規模の学園は、児童生徒数は減っていないし、地域はますます広がっているというところで、同じモデルとして考えることはできません。このところは先ほど最後のグループの乗り物議論をどうしていくかというところに繋がっていくと思います。
- 二つ目は、これからどういう乗り物に乗っていくのか考える時に、重要な視点は自治体が今後その個々の地域をどのように発展させていこうとしているのかということです。つまり、住民福祉をどのような形で充実させていこうとしているのかという視点。その中で大きな役割は教育があるわけですけれども、学校再編という形で矮小化しないように、あくまで飯田市全体の地域の活性化、行政サービスの充実といった視点から捉えていくことが必要だと思います。なので、ぜひ、教育委員会と地域の人たちだけで話をまとめさせられないように、広く、市としてはどういう方向性を持っているのかということも、常に市長部局とタイアップして考えていく必要があるかと思っています。今後、特に本日指摘された今後どういった乗り物に乗っていくかという視点は、学校教育だけの問題ではないので、ぜひ、そういった議論も進めていくようにしてください。以上です。

第2次方針の基本的な考え方 及び 第2次答申に向けた論点整理のためのグループワークの結果を踏まえた 第2次答申及び第2次方針のアウトラインと策定に向けた論点

グループワークのまとめ

- ①-1 学園構想を推進する観点からの検討
- ①-2 学園としての一体感
- ①-3 地域の危機意識
- ①-4 保護者等の意見を大事に
- ①-5 まちづくり委員会の主体性
- ①-6 検討組織の組成
- ①-7 こどもまんなかの徹底
- ②-1 学園地域への寄り添い
- ②-2 検討に必ず参画
- ②-3 最初から一緒に検討
- ②-4 課題、考え方や姿勢の共有
(再編ありきではない・地域に学校を残す)
- ②-5 検討しやすい環境整備(情報等提供)
- ③-1 こどもにとって「最適な学びの環境」の将来がイメージできない
- ③-2 どこまで、いつまでに検討するか
- ③-3 検討組織の委員をどう選出するか
- ③-4 世代間ギャップや地域間ギャップをどのように解消するか
- ③-5 多様な意見を集約することができるか不安
- ④-1 市及び市教委の立ち位置・姿勢の明示
- ④-2 市としての方針を提示
 - a 地域特性を踏まえた規模感
 - b どのような施設が良いか
 - c 規模感や施設面から見た検討優先順位
 - d スケジュール感
- ④-3 通学手段に関する不安

自由記述意見のまとめ

- ① 「こどもまんなか」を基本に据えて
- ② 「学校づくりは地域づくり」の精神
- ③ 市・市教委の寄り添う姿勢
- ④ 基本的な方針について議論を
- ⑤ 具体的な検討に入るために
- 優先順位を明確にする
- ⑥ 地域に学校を「残す」ための方策の検討を
- ⑦ 喫緊の課題としての「複式学級の解消」
- ⑧ 喫緊の課題としての「施設の老朽化」
- ⑨ 飯田学園構想を進めるための施設形態
- ⑩ 地域での検討のあり方

専門委員コメントのまとめ

- 「こどもまんなか」意識の共有
- 市教委の「対話型で共にやっていく」姿勢や立ち位置の明示
- 「いつまでに決めるか」を地域で定めるプロセスの大切さ
- あり方検討が「相互理解を深めるための手続き」であるという認識の共有
- これからどういう乗り物に乗っていくのかという時に重要な役割を果たすのは市
- 市が地域をどのように発展させていこうとしているのかを、学校再編という形で矮小化しないように、常に市長部局と協働を

学園地域の実情に即したボトムアップ型合意形成を進めるための重要な論点等

第2次答申・方針策定に向けた論点

1 学校のあり方を検討する際の基本的な考え方(基本方針)

- 今後、小学校及び中学校の配置や施設形態等のあり方を検討する際の「基本方針(あり方検討の進め方)」を審議し、第2次方針・第2次答申の骨格とする。
- 基本的な考え方：基本方針・視点1・視点3・視点4
- 具体的な論点
 - ① 目的
 - ② 枠組み及び協議検討方式並びに基本とする考え方
 - ③ 検討主体と関係団体や関係者
 - ④ 市及び市教委の立ち位置・姿勢

2 課題を共有するための課題の明確化

- 課題意識の高い学園地域が主体的に検討を開始し、相互理解を深めるための協議を促進する観点から、学校教育面から見る課題を明確にし、検討を進める必要がある学園とその順番を定める。
- 基本的な考え方：基本方針・視点2・視点3・視点5
- 具体的な論点
 - ① 小規模教育の位置付け
 - ② 共有する課題の明確化(協議・検討開始のポイント)
 - ③ 協議・検討を開始する学園
 - ④ 協議・検討の順番

3 学園地域における協議・検討期間及び時期

- 協議・検討の順番を踏まえつつ、学園地域における標準的なボトムアップ・対話方式での協議・検討期間やそれに基づく検討時期を定める。
- 基本的な考え方：基本方針・視点2・視点5
- 具体的な論点
 - ① 学園地域における協議・検討期間及び再編する場合の準備期間の標準形
 - ② ①及び論点2の協議・検討の順番を踏まえた学園毎の検討時期

4 学校施設の形態と位置に関する考え方

- 小中一貫教育を推進する観点から、児童生徒の教育環境を整備する責務を有する市教委として望ましい施設形態を審議し、学園地域における協議・検討の一助とする。
- 基本的な考え方：基本方針・視点1・視点2・視点3
- 具体的な論点
 - ① 小中一貫教育推進、教育行政の持続可能性向上の観点から見た望ましい施設形態
 - ② 学校施設の設置位置(場所)を検討する際の考え方